

17. 去勢抵抗性前立腺がんに対するドセタキセル療法にpegfilgrastimが及ぼす影響

研究の概要と目的

がん化学療法に伴う発熱性好中球減少症は、入院期間の延長や死亡の原因となる重篤な副作用の一つです。この発熱性好中球減少症を予防する目的で本邦では、pegfilgrastim（商品名：ジーラスタ®皮下注3.6 mg）が市販されています。しかしながら、すべての抗がん剤治療に使用されるわけではなく、特に発熱性好中球減少症の発症リスクの高い治療法での使用が推奨されています。去勢抵抗性前立腺がんに対するドセタキセル療法は、発熱性好中球減少症に対して注意が必要な薬剤ですが、現在のところpegfilgrastimの積極的な予防投与は推奨されていません。そこで今回当院で去勢抵抗性前立腺がんに対するドセタキセル療法を実施されている患者様を対象に、発熱性好中球減少症の発症頻度を調査し、pegfilgrastimの必要性和有効性を電子カルテより調査いたします。またpegfilgrastimは、高価な薬剤であるため医療経済に対する影響も併せて調査いたします。

研究の目的と方法

本研究では、2013年1月から2017年10月の期間に去勢抵抗性前立腺がんに対してドセタキセルが投与された患者様を対象としています。日常診療で得られた臨床データ（年齢、性別、主病名、既往歴、検査結果など）を電子カルテから集計します。また医療費については医事会計システムより算出します。

本研究の参加について

これにより患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究に扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。皆様の貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。本研究にご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございます際は、末尾の問い合わせ先までご連絡ください。

調査期間

2018年5月から2019年4月にかけて、カルテを調査します。

研究成果の発表

調査した患者様のデータは、集団として分析し、学会や論文で発表します。また、個々の患者様のデータを発表するときも、個人が特定されることはありません。

研究代表者

治験センター 高武嘉道

当院における研究責任者

治験センター 高武嘉道

問い合わせ先

治験センター 高武嘉道

TEL: 096-353-6501